

9/2 14:00 開会式



■**歓迎挨拶**
工藤 栄光
北海道豊富町長

第 5 回日本の名湯百選®シンポジウムが、全国の「名湯」温泉地の皆様、そして温泉関係者の皆様を多数お迎えして開催できますことに感謝いたしますとともに、豊富町民一同心より歓迎申し上げます。

さて、豊富温泉は大正 14 年石油掘削の際に天然ガスとともに噴出し、本年 90 周年を迎えました。それ以来、日本最北の温泉郷として、国立公園サロベツ原野とともに本町の観光産業の柱として全国の皆様にご利用頂いております。

豊富温泉は、そのかすかな石油臭をとまなうモール泉が「アトピー性皮膚炎」や「尋常性乾癬」に効能が高いと話題になり、全国から多くの観光客と湯治客が訪れています。昔から豊富温泉は特に火傷等に大きな効能がある温泉として伝えられておりましたが、全国のおくの方がご苦労されているアトピーや乾癬等の皮膚病に非常に効能が高い温泉として「奇跡の湯」と呼ばれる評価や感謝の言葉を頂いていると同時に、最近では多くの皮膚科医の先生方にも豊富温泉での療養を薦めて頂いております。そのため当町では、平成 26 年を「豊富温泉再生元年」と位置づけ従来の観光型温泉地から「療養型温泉」と、明確に目標を設定し温泉地区のハード整備事業や受け入れに対するソフト事業のスタートをいたしました。

湧出 90 周年の記念の年を迎えるここ豊富で、全国から先進的な取り組みをされております名湯百選地の皆様とともにシンポジウムを開催できますことは、大変有意義であり、このシンポジウムを契機として、「療養」「保養」「休養」という観点から温泉地間での連携や情報交換などを行いながら、それぞれの温泉地が活性化され、賑わいが生まれるような取り組みがなされることを期待するものであります。

結びに、本シンポジウム開催にあたりご尽力いただきました関係各位に感謝を申し上げますとともに全国各地からご参加頂きました「名湯」温泉地の更なるご発展を祈念申し上げ、歓迎のご挨拶とさせていただきます。



■**主催者挨拶**
三友 紀男
健康と温泉フォーラム会長
仙台社会保険病院名誉院長

「日本の名湯百選®」は健康と温泉 FORUM 実行委員会（現在は NPO 法人健康と温泉フォーラム）の初代会長の大島良雄（東京大学名誉教授）と温泉療法医学会会長の斎藤幾久次郎（北海道大学名誉教授）が観光・歓楽型ではない保養と療養に適した温泉地を、温泉療法医が勤める温泉地として認定する事業でした。主に 1989 年から 1992 年の 4 年間にかけ全国の温泉地から百箇所の温泉地を目標に選定した事業ですが、当時厳しい選定条件

PROFILE 講師・パネラー プロフィール

工藤 栄光　くどう えいみつ

昭和 24 年豊富町生まれ。昭和 47 年豊富町役場奉職
平成 11 年助役　平成 15 年町長就任。現在 4 期目

大塚 吉則　おおつか　よしのり

1955 年生まれ 1979 年北海道大学医学部医学科卒業
コーネル医科大学学生化学教室、ミュンヘン大学温泉治療研究施設、北海道大学付属病院登別分院、2008 年北海道大学大学院教育学研究科健康スポーツ科学講座教授を経て現職

をクリアーし、選定されたのは 89 箇所の温泉地でした。パブル景気が崩壊し、観光・歓楽型から温泉地が健康志向を模索し始め、その後、残り 11 箇所の認定をめくり、自薦他薦含め多くの問い合わせがありました。しかし、選定には多くの時間や経費がかかり、なかなか取り組むことが困難でした。この状況を変えたのが、2011 年 3 月の東日本大震災及び東電の原発事故により、壊滅的な被害を受けた東北の温 泉地でした。半年後、福島県いわき市のいわき湯本温泉で「震災復興記念全国温泉地フォーラム」を開催し、「自然の脅威としての地震と、その恵み、慈悲としての温泉を」広く訴え、その 復興の記念として念願の 11 箇所の温泉地を認定し名実ともに「日本の名湯百選®」となり、今日 の日本の名湯百選広域連携事業がスタートしました。本日、開湯 90 周年を迎える日本の最北の名湯で第 5 回目のシンポジウムを開催することができ、参加いただいています全国の温泉地関係者を代表して、地元豊富町はじめ関係者の皆様に厚く御礼申し上げ主催者の挨拶といたします。

14:30 基調講演

「日本最北の名湯への期待と課題」



大塚 吉則
北海道大学大学院教育学研究院教授
日本温泉気候物理医学会理事長

豊富温泉の名は日本全国に知られており、特に皮膚科医の間では有名な温泉地です。温泉学会の学術集会を洞爺湖温泉で開催したとき、東北地方から来られた皮膚科医は、学会終了後に豊富温泉に出かけられ、とても感銘を受けたことを話してくれました。私は旭川生まれの旭川育ちで生粋の道産子ですが、豊富温泉を訪れたことはなく、今回初めての訪問で非常に楽しみにしてきました。

日常臨床では温泉療法についての質問を受けることは殆どありませんが、年に数回程度、相談を受けてアドバイスをを行うことがあります。肌にいい温泉、皮膚疾患に効能のある温泉についての質問も受けることがあり、豊富温泉についても聞かれることがありましたが、これからは、人から聞いた話ではなく、実際にこの目で見て確認した豊富温泉について答えることができますので、とてもうれしく思っています。

豊富温泉は平成 4 年に国民保養温泉地に指定されていますが、イメージ的に保養温泉地というよりは皮膚疾患の治療の場、という印象が強く感じられます。それは知り合いの皮膚科医が毎年のように患者さんを伴ってこの地に治療目的で滞在している事実を知っているからで、ある講演会でその成果をお話していただいたことがあったからなのです。

さて、豊富温泉の泉質を見ると、ナトリウム塩化物・炭酸水素塩泉となっています。日本で一番数の多いナトリウム塩化物泉の仲間であり、よく温まるお湯だということが分かります。また、ガス成分を除く溶存物質総量が温泉水 1kg あたり約 14g あり、濃い温泉水だということもその特徴の一つです。また、皮膚のバリア機能の維持に欠かせないマグネシウム、カルシウムなどのイオンも含んでおり、皮膚にはいいお湯だと推察できます。

合田 純人　こうだ　すみと

世界保健機関（WHO）と公式関係を持つ国際温泉気候連合アジア・太平洋協議会（FAPAC）の事務局長を永年務め、アジア太平洋地区の温泉の社会的利用と保健的利用の啓蒙・普及をはじめイランやペルーなどの温泉調査・開発プロジェクトに携わった。国内では自治体や団体のアドバイザー・委員を歴任。

中島 尚子　なかじま　なおこ

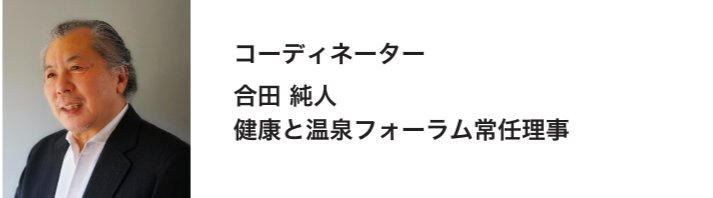
平成 6 年、環境庁（当時）入庁。以来、主に自然環境局において、国立公園の保護管理や自然環境調査、国際条約に関する調整業務等に携わる。関東地方環境事務所国立公園課長、自然保護統括企画官を経て、昨年 12 月より現職。

しかし何といっても、その一番の特徴は油成分を含むということです。それが皮膚表面に膜を形成して汗の蒸発を防ぐためよく温まり、皮膚の保湿にも役立っているのだと思います。私は漢方を用いた治療も行っており、以前は漢方薬と一緒にタール成分の入った軟膏を処方してアトピー性皮膚炎の治療にあたっていました。したがって、自然の恵みである豊富温泉油成分中のタールに薬効があることは容易に想像できます。残念ながらこの軟膏は発売中止になり現在使用することができませんので、天然の薬剤である豊富温泉がとても貴重な存在になっている訳です。

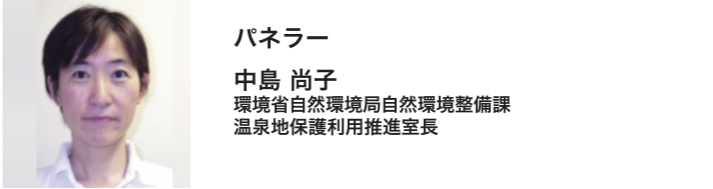
ところで今回、厚労省の指導で労働安全衛生法が改正され、労働者が 50 人以上いる事業所では、年に一度、ストレス検査を全ての労働者に対して実施することが義務付けられました。その目的は「うつ」などのメンタルヘルスの不調を防止し、ストレスが強度の場合には医師による面談を経て適切に対処するためです。温泉療法は心身のストレスを軽減するために最適な方法です。私の属する日本温泉気候物理医学会では、温泉の脱ストレス作用をこの豊富温泉で是非検討させていただきたいと思っており、その結果が得られれば、豊富温泉のさらなる発展につながるものと考えていますので、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

15:40 パネルディスカッション

「温泉を活用した健康づくりと地域づくり」



コーディネーター
合田 純人
健康と温泉フォーラム常任理事



パネラー
中島 尚子
環境省自然環境局自然環境整備課
温泉地保護利用推進室長

「温泉地の利活用と魅力向上に向けた環境省の取り組み」

わが国において、温泉は各地で湯治等の目的で古くから利用され、親しまれてきた。時代ごと、また地域ごとに利用形態の相違はあるものの、今でも温泉は魅力的な自然観光資源の一つとして、国内外から多くの観光客、利用客を引きつけている。一方で、日帰り温泉施設の増加や旅行形態の変化等により、温泉地での宿泊利用客数は全国的に減少傾向にあり、地方の過疎化や高齢化の課題とも相まって旅館の廃業等が進む温泉地も数多い。

環境省では、従前より温泉法を所管し、温泉資源の保護と利用の適正化を進めてきたが、昨年 12 月、政府が推進する地方創生、また外国人来訪者の誘致拡大にかかる方針を踏まえつつ、自然環境局に温泉地保護利用推進室を新たに設置し、温泉地の活性化と利用推進に向けた施策展開

関口 陽一　せきぐち　よういち

株式会社日本政策投資銀行から本年 4 月より北海道経済連合会に出向し、地域政策グループにて道内空港民間委託をはじめとする社会資本、観光振興に関する調査業務を担当している。

齋藤 真由美　さいとう　まゆみ

豊富町出身。豊富町役場保健師を経て、平成 18 年 4 月よりふれあいセンター健康相談員として来館されるお客様の体調管理に従事。

を図っているところである。

その一環として、本年 5 月には、全国から 34 の自治体首長等を含む 70 自治体の参画を得て、初となる「全国温泉地サミット in 東京」を開催した。本サミットにおいては、環境省から今後の施策の方向性を示した「環境省温泉地活性化プロジェクト」が発表されたほか、サミット第 1 部の首長会議において、竹田市長の発案による環境省への要望書が各首長等の合意、署名を経て提出された。また、本サミットにあわせ、本年 5 月新たに国民保養温泉地として指定された「二岐・岩瀬湯本・天栄温泉」及び「五頭温泉郷」、また大幅区域拡張を行った「鳴子温泉郷」の指定式が執り行われた。環境省では現在わが国の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図り外国人利用の拡大を目指す「国立公園満喫プロジェクト」も進めているところであり、これら関連施策とも連動しながら、わが国が誇る「温泉」の魅力を最大限に活かし地域の活性化につなげるための取組みを進めていくこととしている。



パネラー
工藤 栄光
北海道豊富町長

「現在の豊富温泉の取り組み」

豊富温泉は平成に入ってから一般観光客の減少に反比例するように、尋常性乾癬の長期湯治客が増えてきました。長期湯治に対応できる安価な宿泊施設の要望を受け、町は温泉地区にあった北海道所有の 7 室の施設を買い取り、湯治専用自炊型宿泊施設「湯快宿」として平成 6 年にオープンしました。また、その頃から乾癬のみで無く、アトピー性皮膚炎にも効果があると評判が広がり、湯快宿の宿泊者の多くがアトピーによる湯治客となってきました。年々宿泊客数も伸びてきたため温地区内の閉館したホテルを町が買い取り、改装を行い、平成 27 年 4 月に部屋数 19 室の新「湯快宿」としてオープンしております。

年々増えていく湯治客の対応、また空洞化した温泉地区の再整備を目的に豊富町商工会と連携し「豊富温泉活性化協議会」を設立。町営日帰り入浴施設「ふれあいセンター」内にコンシェルジュデスクを設置し、湯治生活相談や湯治客の足の確保等を行うためのレンタカーサービス等を開始した他、保健師・看護師を常駐させ健康指導、湯治相談や入浴指導を行って参りました。

豊富温泉の評判を聞いた全国の皮膚科医師等からの注目も多くなり、昨年は全国の皮膚科医師 10 名を中心としたシンポジウムを開催し、なぜ豊富温泉はアトピーや乾癬に効果が高いのか調査、研究も行われており昨年、療法医が推薦する「日本の名湯百選」にも選定されたことから、今後は受け入れ態勢の充実として「ふれあいセンター」の医療費税控除の対象となる「温泉利用型健康増進施設」の認可を含めた再整備を目指していく方向です。

湯治を目的に豊富温泉に療養に来た若い方を中心に豊富町に移住される方も年々増えており、移住者を中心とした町内での様々な活動も増え、温泉地区や町内に新しい風も吹き始めています。町としても豊富温泉を地方創生の大きな柱として今後、就労の場、住居の確保に向け官民協働で積極的移住対策等に取り組みたいと考えています。

小川 正人　おがわ　まさと

株式会社 A N A 総合研究所代表取締役副社長
公益社団法人日本観光振興協会国内観光促進委員会委員長
ツーリズムエキスポ 2016 広報部会長
1978 年　慶応義塾大学経済学部卒業　同年全日本空輸株式会社入社　東京支店法人営業部長　広報室長　ビジネスサポート推進部長　秘書室長を歴任し、2009 年執行役員営業本部副本部長　2011 年上席執行役員名古屋支店長を経て 2015 年 4 月より現職　A N A グループの基盤である地方の活性化に邁進している。